

進路だより⑩ 平成二十八年二月十九日発行

面接指導（一、二年生向け）が行われました。

一月二十三日～二月十七日 総合的な学習の時間 全六時間

すでに進路を決定した三年生の模範面接を皮切りに、六時間かけて面接の練習を行いました。模範面接は進学代表・村瀬さん、就職代表・杉原君が、高校生らしくさわやかで、芯の通ったしつかりした態度を後輩達に見せてくれました。

先輩からの面接指導を受けました。



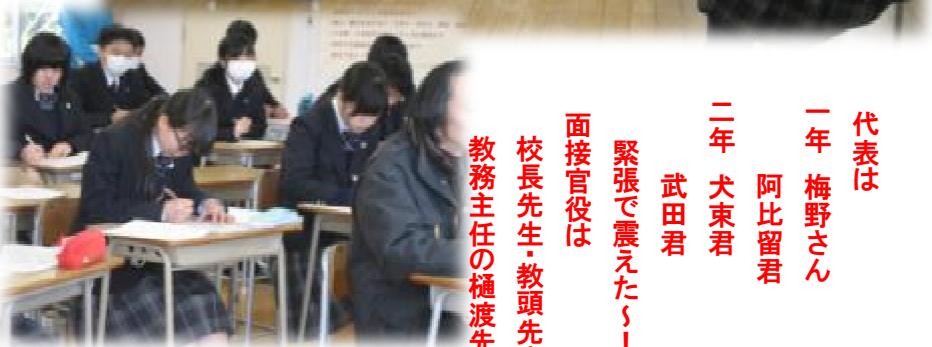
三年生も賞状出てきました！



添削や模擬集団面接を経て、学年代表が模擬面接を生徒全員の前で披露しました。



友達の模擬面接を参考にメモ、メモ…



代表は

一年 梅野さん

阿比留君

二年 犬東君

武田君

緊張で震えた〜！

面接官役は

校長先生・教頭先生・

教務主任の樋渡先生

面接官役の先生から

アドバイス

ボキャブラリーを増やそう！
具体的に話そう！
面接は会話だ！

など

生徒感想

- ・地域の方への挨拶を今以上にしっかりと行って、つながりを大切にしたい。
- ・ボランティア参加を今年より増やす！
- ・ワンストップ挨拶を確実にやっていく。
- ・コミュニケーション能力を上げるため、日頃から意識してみんなと話す！

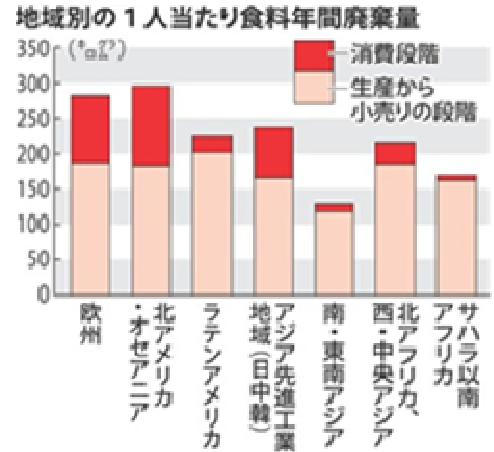
【ニュースに関心を持とう！】

<フランス>売れ残り食料、廃棄禁止…大型スーパー

[毎日新聞](#) 2月17日(水)19時2分配信

地域別の1人当たり食料年間廃棄量

◇慈善団体へ寄付、法で義務化



※国連食糧農業機関の2011年統計より

【パリ賀有勇】世界の食料生産量の約3分の1が毎年廃棄されている。その現状を変えようとしたパリ近郊クルーズボア市のアラシュ・デランバーシュ市議（36）の努力が結実し、フランス全土にある大型スーパーに売れ残りの食料の廃棄を禁じ、慈善団体への寄付を義務付ける法律が成立した。

イラン革命（1979年）でフランスに逃れた両親の間に生まれたデランバーシュさんは、大学時代に食費の工面に苦労した経験から食料廃棄に目を向けるようになった。

市議になった2014年、訪ね歩いたスーパーでは、廃棄食品が持ち去られるのを防ぐためにゴミ箱に鍵をかけたり、食べることができないように化学薬品で処理した上で廃棄されたりしていた。デランバーシュさんが生活困窮者への無償提供を打診すると、「法規制されたらやるよ」と皮肉交じりに言われた。

SNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）で法規制を呼びかけ、インターネットの署名サイトで約20万人の署名を集めた。下院議員に協力を呼びかけ、2月3日、法が成立した。

食料廃棄禁止法は、延べ床面積400平方メートル以上の大型スーパーを対象に、売れ残りの食料の廃棄を禁止し、生活困窮者に配給する活動を行う団体への寄付を義務付ける。違反するたびに3750ユーロ（約48万円）の罰金が科せられる。

国連食糧農業機関（FAO）などによると、毎年世界で13億トンもの食料が、収穫されてから消費者の口に入るまでの間に廃棄され、食べられるのに家庭やレストランで廃棄される「食品ロス」は、フランスは約700万トン、日本は約640万トンとされている。

デランバーシュさんは、「日本は第二次世界大戦で飢えを経験し、食べ物の貴さを理解している。きっと現状を変えることはできるはずだ」と呼びかけた。

【関連記事】

- [<食品ロス>全国で年間500万～800万トン](#)
- [<こども食堂>福岡にオープン お手伝いや勉強で無料に](#)
- [<食品捨てる前に「フードバンク」へ 生活困窮者に無料で提供>](#)
- [<子の貧困対策>活動のSSW50人 勤務に制限、人材不足も](#)
- [<フードドライブ>家庭に眠っている食品を子育て中の貧困家庭へ 福岡](#)